

白 夜

池の下 第29回公演 寺山修司全作品上演計画 第20弾

作／寺山修司 演出・美術／長野和文

出演：SUMIO(トツゲキ倶楽部 オフィス・イヴ) 岩切チャボ 井口香 青木五百厘(劇団KIII)

照明：安達直美

音響：高沼薫

舞台監督：田中新一(東京メザマシ団)

制作協力：潮田 暁

宣伝美術・画：丸尾末広

企画制作：池の下

池の下について

1996年 演出家 長野和文を中心に結成。寺山修司全作品上演計画を展開。愛知県芸術劇場「青森県のせむし男」、東京グローブ座 春のフェスティバル『青ひげ公の城』。利賀演出家コンクール2006で「犬神」を上演。優秀演出家賞を受賞。2007年夏『狂人教育』で3カ国6都市連続公演(密陽演劇祭)(ソウル)(大阪)(名古屋)(東京)(上海 国際小劇場演劇祭)を取行。また、2008年からはMISHIMA PROJECTを東京、上海、利賀で実施。2012年より海外作品シリーズをスタートし、海外の戯曲を新たな切り口で上演。2019年にポーランドのグロトフスキ研究所とグダニスク・シェイクスピア劇場より招聘を受けて『狂人教育』を上演。

寺山修司全作品上演計画について

池の下では、これまで27年間にわたって寺山作品を19本上演してきた。寺山の演劇は初期、中期、後期と大きく変化してきたので、池の下でも作品ごとに劇づくりの方法を変えてきている。ただひとつ変わらないのは、劇創作のために考察と試行錯誤を重ね、様々な実験を繰り返して来たことだ。このプロジェクトは寺山修司の演劇作品をすべて上演することを通じて、現代演劇の新たな可能性を探り、これまでにない寺山ワールドを創出することをめざしている。寺山が書いた戯曲を、演劇を創作する上での一つのテキストととらえて、再現よりも再生を求めて上演し続けている。

「白夜」について

「1962年12月に文学座のアトリエによって初演された。この作品はO・ヘンリーの短編「家を持つ借間」から発想を得たもので、日常の恐怖をテーマにしたものである。この世でいちばん怖ろしいのは怪物でも戦争でもなく「何も起らぬこと」ではないか、というのが当時の私の重要なモチーフであった。この年には、成人した大人の失踪家出人が年間5千人以上を超えている。しかも、彼らの大半が、経済的にも家庭的にも恵まれていて、失踪の理由は全くの謎だとされている。(略)私はこれを書きながら失踪の理由について、私なりに推理をしてみようと思った。」

(「寺山修司戯曲集」初期「幕物篇」(解題)「より抜粋」)



寺山修司全作品上演計画より

2023.12.15[金] - 17[日]

全席自由 前売 3,500円 当日 4,000円

◆チケット販売 10月1日より発売開始 2023.12

◎Web予約 <http://www.ikenoshita.com>
(池の下公式サイトより、Ticketページへ)

◎カンフェティチケットセンター (平日 10:00-18:00)

0120-240-540 <https://www.confetti-web.com>

◎イープラス <https://eplus.jp/>

15(金) 16(土) 17(日)



※開場は開演の30分前です。

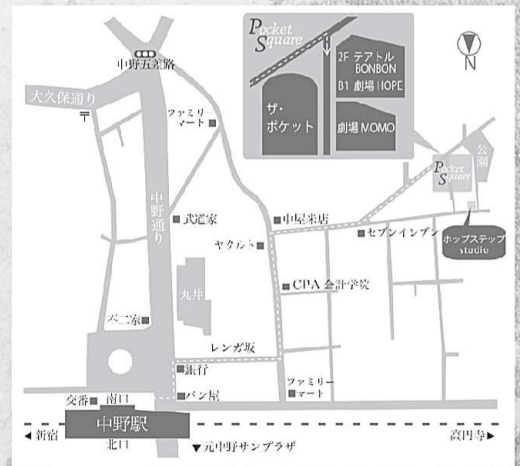


助成：公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京
【東京ライブ・ステージ応援助成】



会場 | 劇場MOMO

東京都中野区中野3-22-8 劇場事務所 TEL.03-3381-8422



劇場ロビー TEL.03-5385-9080(公演期間中のみ)

JR中央・総武線/東京メトロ東西線 中野駅南口より徒歩7分
※駐車設備はありません。車、バイクでのご来場はご遠慮下さい。



池の下

IKENOSHITA
THEATRICAL
COMPANY

お問合せ 090-9832-0481